



沖縄の疾患を顕微鏡からながめて

琉球大学医学部生体検査学講座形態病理学分野 教授 金城 貴 夫 (8期生)

琉球大学医学部医学科同窓会の皆様には御健勝にて御活躍の事と拝察致します。この度、4月1日付けで本学保健学科形態病理学分野に赴任致しました金城です。私は平成6年に本学医学部医学科を卒業(8期生)しましたので早いものでもう15年が経ちました。卒後2年間は沖縄県立中部病院にて臨床研修を行い、平成8年に当時岩政輝男先生の主宰されておられた本学病理学第2講座に入局致しました。以来岩政先生の御指導の下、沖縄県の疾患の特徴について病理形態学的検討は勿論の事、分子生物学的な解析を行って参りました。当初与えられた研究テーマは沖縄県の単純ヘルペスウイルスの神経毒性に関するものでしたが、教室の研究体制が大きくなるにつれて私は色々な沖縄県の疾患の解析に関わって参りました。沖縄県の疾患の組織像を丹念に検討すると実に興味深い事実に気付かされます。例えば沖縄県の肺癌の組織像の変遷とHPVの感染率の関連を見出し、HPVによる扁平上皮への分化誘導を実験的に証明しました。その他にも沖縄県の口腔癌とHPV、EBV感染との高い関連性や沖縄県に多い古典型カポジ肉腫の発症に関与しているHHV-8の遺伝子の違いを明らかにしました。沖縄県は小さな島々からなり決して広くはありませんが、沖縄県の疾患は本土や他国と比べても独自の特色を有しています。これを詳しく検討し解析する事は疾患の新たな面を発見すると共に沖縄県民の健康増進にも寄与する事と考えます。琉大医学部の使命として沖縄の疾患の研究はもっと力を入れるべきですし、私達教官がもっと若い人達に研究に興味を持ってもらえる様アピールしなければいけないと思っています。

研究と共に、入局以来10年以上病理組織診断や病理解剖を通じて本学医学部付属病院の診療にも参加して参りました。研究と診療業務はそれぞれが気

の抜けない緻密な作業や注意深い観察を要する仕事で、いつも帰りが遅くなってしまいますが、この仕事は自分がやり遂げるんだという気持ちで何とか持ちこたえているように思います。勿論私一人で全てこなした訳ではありません。私が厳しい状況にある時にはいつも周りの方々に支えられ助けて頂きました。今でもとても感謝しています。

縁あって保健学科に赴任しましたが研究と診療を行いながら、看護師や臨床検査技師を目指す学生達をちゃんと指導出来るのか、私で務まるのか不安でした。医学科出身の私が保健学科に来た意義があるとしたら、相互の交流をもっと深めてより良い研究、教育を行う事ではないかと考えています。その意味でも解剖学第一分野の石田教授の御好意で保健学科の学生達を解剖実習に参加させる事が出来たのは私にとって理想とする相互交流の大きな一歩でした。教授になって変わった点といえば、教室のマネジメントをいつも気にするようになった事です。研究費の獲得、研究室の整備、人材の募集等、教室の運営や研究の遂行のために色々と計画し他の教室の先生方や事務方と相談し、書類を書く仕事が多くなりました。そのため研究室のベンチで実験する時間が減ってしまいましたが、可能な限り第一線に立って研究したいと思っています。着任早々保健学科の共同研究室の整備、改修プロジェクトに携わる機会に恵まれ、大学の予算や運営等今迄考えなかった点にも目を向けるようになりました。来年春からは当教室に大学院生が来ます。研究の面白さや厳しさを教えて一人でも多くの優秀な人材を育てるのが私の夢であり目標でありまたお世話になった母校に対する恩返しだと思っています。最後に、同窓会の皆様方の益々の御活躍と御発展を祈念致しまして御挨拶とさせていただきます。